

金沢文庫駅・金沢八景駅エリア

金沢文庫駅・金沢八景駅周辺エリアは、両駅からおよそ500mから1,000mの範囲の徒歩圏に金沢区社会福祉協議会 及び 金沢区福祉保健活動拠点のある「いきいきセンター金沢」などの福祉施設や「金沢区総合庁舎」などの公共施設、商業施設や病院なども集まる、多くの人々が活動するエリアです。そこで、様々な立場の人々が、分かりやすく安全に駅や施設・道路を利用できるように平成25年3月にバリアフリー基本構想を作成しました。



「バリアフリー基本構想」とは

鉄道駅等の旅客施設を中心とした地区等で、高齢者、障害者などが利用する施設が集まり、施設間の移動が通常徒歩で行われる地区（重点整備地区）において、公共交通機関、建築物、道路、路外駐車場、都市公園、信号機などのバリアフリー化を重点的かつ一体的に推進するために作成する構想のことです。

「バリアフリー基本構想」では重点整備地区の範囲、バリアフリー化のために実施すべき事業（特定事業等）の内容等を定めます。個々の施設のバリアフリー化だけではなく道路と施設等の連続性を確保したバリアフリー化のために基本構想を作成します。

横浜市ではこの基本構想に基づいて、まちのバリアフリー化を進めています。

「バリアフリー基本構想」に基づいた整備事業

「バリアフリー基本構想」に基づいて、各事業者が重点整備地区内のバリアフリー化の事業を実施します。

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| ○ 公共交通特定事業（旅客施設等のバリアフリー化に関する事業） | ○ 道路特定事業（歩道等のバリアフリー化に関する事業） |
| ○ 交通安全特定事業（音響式信号機の設置等に関する事業） | ○ 建築物特定事業（建築物のバリアフリー化に関する事業） |
| ○ 都市公園特定事業（公園のバリアフリー化に関する事業） | ○ その他の事業（その他のバリアフリー化に関する事業） |

バリアフリーの豆知識

視覚障害者誘導用ブロックとは

歩道や駅のコンコース、公共の施設などに設置されている「点字ブロック」は、正式名称を「視覚障害者誘導用ブロック」といいます。

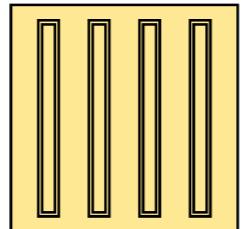
視覚障害者誘導用ブロックは日本で考案され、初めて敷設されたのは1967年に岡山県立岡山盲学校近くの国道2号線（当時）の横断歩道を知らせるものでした。

視覚障害者誘導用ブロックの色は一般的なアスファルト舗装と見分けやすく、視覚障害者（弱視）を適切に誘導できる黄色を基本としています。

種類は誘導を促す「線状ブロック」と段差の存在などの警告や注意を知らせる「点状ブロック」があり、形状・寸法はJIS規格で定められています。

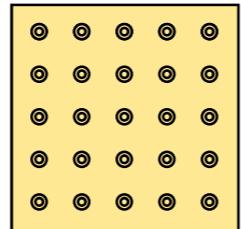
線状ブロック

歩行者動線方向と線状突起方向を平行に敷設する



点状ブロック

危険や注意などを知らせる



発行 横浜市道路局 計画調整部 企画課 令和4年11月発行

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10

電話番号：045-671-4086 ファクス：045-651-6527

メールアドレス：do-barrierfree@city.yokohama.jp

ホームページ：https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/doro/jigyo_kikaku/barrier-free/bf.html



ヨコハマこんなマチになりました

横浜市バリアフリー基本構想 Before/After



金沢文庫駅
周辺

横浜市



金沢八景駅
視覚障害者誘導用ブロックを整備し、広い改札口を設け、トイレも使いやすくしました。



りそな銀行
視覚障害者誘導用ブロックを設置しました。



横浜市立大学
視覚障害者誘導用ブロックの色を改善しました。



みずほ銀行
視覚障害者誘導用ブロックを設置しました。



三井住友銀行
スロープを改善し、手すりを設置しました。



横浜信用金庫
視覚障害者誘導用ブロックを設置しました。



法務局金沢出張所
手すりと視覚障害者誘導用ブロックを設置しました。



ハローワーク横浜南
視覚障害者誘導用ブロックを設置しました。

